

雨にも負けずカワハギ攻略 良型狙いのチャンスは今!

東京湾のカワハギ釣りが水温の低下とともに本格シーズンを迎えた。カワハギと言えば沖釣りの魚種の中でもテクニカルなターゲットとして昔からファンが多い。

エサ取り名人として知られ、それをなんとかしてハリに掛けるところが究極の面白さだとマニアの間ではささやかれている。海のフオアグラとも言える



▲根周りのポイントで25センチ前後の良型連発

キモのおいしさも魅力の一つで私も大好物だ。新鮮なものが手に入るの釣りの人の特権ともいえ、これ目当てのグルメファンも少なくない。いずれにしても人気の色あせないターゲットである。

出足は上々

今シーズンの状況はいかにと、10月31日の日曜日に東京湾奥浦安の岩田屋へと出かけてきた。電車でのアクセスもよく、シロギスやライトアジ、カサゴなど東京湾の釣り全般に精通。最近タチウオにも出船するマルチな船宿である。もちろん秋から冬にかけてはカワハギがメインターゲットになる。といってもここ何年かはカワハギに元気がなく、例年なら9月中旬からスタートしていたのだが、今シーズンはちよつと遅い10月2日が初日だった。そして取材日ま

でに出船したのがもう1回あっただけ。そのため状況が今一つつかめていないようだ。朝6時ちよい過ぎに船宿に着き、常連のお客さんや同宿4代目の岩田一人船長とのあいさつは「今日は釣れるかな?」であった。

まあ毎日状況は変わるわけだし釣れるか釣れないかなんて行ってみなきゃ分からない。釣りには出たとこ勝負でしょ! ということで10名のお客さんに乗せて定刻7時に河岸払いとなった。

目指すは竹岡沖。湾奥のカワハギ船の定番釣り場である。航程1時間半ほどと少し長旅になるが、往復は寝ていられるから体力的には楽だ。

船がスローになり釣り場が近づいてきたことを知らせる。キャビンで待ちわびていたお客さんも一人、二人と外に出て釣りの準備を始めた。私もカメラを持って外に出たのだが、顔にポツポツたるものにぼうぜんとなる。

ウソでしょ! よりによって取材のときに雨予報が当たるとは……本降りになったらヤバイぞ……。

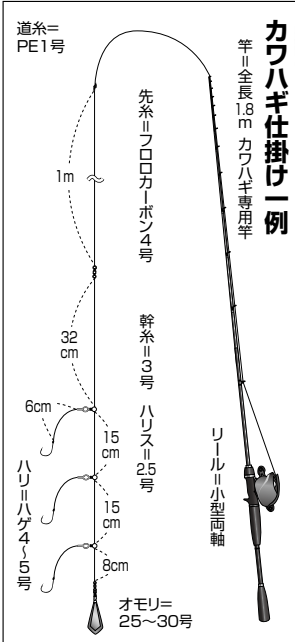
水深25メートルから釣り開始。一斉に仕掛けが投入されたが私は雨が気になって仕方がない。

しかし、その心配はすぐ解消された。左トモの顔なじみの常連さんがカワハギを手を持っておいでおいでの合図。すかさず駆けつけると、

「1投目からきたよ。今日は活性がいいみたい」と初物を手にうれしそう。その言葉どおりにミヨシ側でも1枚、さらに1枚と続けて上がり、アツという間に取材成立。天には見放されたがボセイドン(海の神)は味方してく

Tackle Guide

エサ取り名人に対抗するには極先調子のアタリが取りやすい専用竿が不可欠。人気魚種だけに各メーカーから多種販売されている。仕掛けは図が基本。ハリの間隔やハリス長は好みの長さに変える。集寄やラバースカートなどコレクションはお好みで。



カワハギ仕掛け一例

竿 全長1.8m カワハギ専用竿

リーダー 小型雷輪

先ほどと同様いい感じで、しかも狙いどおり型がよく20、25センチ前後が中心。尺は出なかったが当日最大27センチも釣れて船長もドヤ顔である。何年前のバリバリ感には到底およばないが、それなりに顔を見せてくれるから皆さん雨でも心は折れないようだ。

難敵あらわる

ベラやトラギスのエサ取りも顔を見せるが猛攻という感じではなく、まあ許せる範囲。アタリもなくエサがそのまま残って上がってくるよりも、生命体を感じていたほうがそのうちカワハギが食ってくるだろうと期待も高まる。ただ、サバフグが多く、エサだけではなくハリごと持っていくられるのは皆さん困惑である。しかもサイズが30センチ超えのデカイのが多くて、尺ハギのような引きで期待さ

せるから紛らわしい。デカイサバフグを抜き上げると竿先を折ってしまうトラブルもありうる。ベテランたちは船内に取り込まず、ハリ外しを使って海にお帰り願っている。しばらくカワハギの引きを楽しんだところで、今度はやや深場を狙うことになった。今シーズンはこの日を含めて3回目の出船だけに、船長も過去に実績のあるポイントを探って様子を見ていきたいのだろう。水深35メートルで再開。周りには他船もいて期待が持てそうだったが、残念ながら1、2枚顔を見ただけ。知れたポイントだけに、もう少し水温が下がって群れが固まれば釣れるようになるだろう、とは船長の見通し。

2、3回流し変えたがバツとせず、早朝に狙った辺りに再び移動。しかし、朝ほどのアタリはなく、エサ取りがハリにぶら下がってくるものが多くなってきた。

結局午後からは小移動を繰り返して拾い釣り、定刻14時に沖揚りとなった。雨にも負けずがんばった釣果は16、27センチが1、9枚。スソの方を除いて平均5、6枚といったところ。船長の読みどおり、勝負はこれからと期待しよう。



▲当日は小型でもこのサイズ



▶最初の流しで本命連発
▼アベレージサイズは20センチ前後

●船宿information
東京湾奥浦安
岩田屋
☎047-351-2862
(詳細は巻末の情報欄参照)

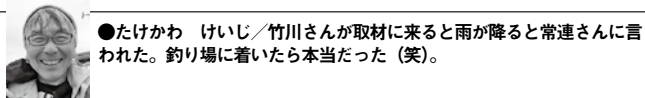
▶料金=カワハギ乗合一人1万円
(エサ、水付き)、女性・子供割引あり
▶備考=7時出船。釣り物は各種リクエスト可
(平日は3名から出船)。ライトアジ、タチウオ、シロギス、鯛木スミイカも

岩田一人船長

知得! Tips and Tricks
カワハギのコツ

その日の状況でカワハギのいる場所が変わるので、底か宙層かアタリが出るタナを探るのが第一歩。エサのアサリはいいいにハリに付けること。適当だとまさにカワハギの思うツボである。

▶二日の中も変わっていくヒットパターを探るのが楽しい



●たけかわ けいじ/竹川さんが取材に来ると雨が降ると常連さんに言われた。釣り場に着いたら本当たった(笑)。